

令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における天下茶屋小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年4月から令和3年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- （１）子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （２）各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- （３）各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・天下茶屋小学校では、5年生 35名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）
を実施する。

令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証 学校の概要

大阪市立天下茶屋

小学校

児童数

35

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.61	17.88	28.88	34.35	27.71	9.53	149.22	20.94	48.31
大阪市	16.11	18.48	32.94	37.73	42.24	9.50	147.79	20.23	50.79
全国	16.22	18.90	33.48	40.35	46.83	9.45	151.41	20.58	52.52
女子	16.29	13.63	36.31	33.19	20.88	10.05	129.69	10.65	46.38
大阪市	16.00	17.64	37.71	36.25	34.55	9.70	140.60	12.84	52.81
全国	16.09	18.08	37.90	38.72	38.15	9.64	145.18	13.30	54.64

結果の概要

コロナ禍の中、心配された子どもたちの体力低下は如実に表れた。男女とも20mシャトルランでは全国・市平均とはかけ離れた結果になっている。実技種目別においても、男子では握力とソフトボール、女子では握力以外は全国平均を下回り、その結果体力合計点は男女とも全国・市平均を下回った。質問項目では「運動やスポーツをすることは好きですか」で、男子は66.7%が好きと答えているが、女子では47.1%と男女に差がある。好きな理由は男女とも小学校入学前から体を動かすことが好きが最も多く、きらいな理由はやはり入学前から体を動かすことが苦手を一番に挙げている。都会に住みゲーム遊びが多い環境が要因の一つと考えられる。1週間の総運動量が60分未満の割合は男子で5.5%で全国平均・市平均よりも低い、女子では35.4%と高く、全国・市平均より多く、女子については運動量はかなり少ないといえる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校は例年1月に「なわとび週間」を設け、その際に個人や学級の目標を立てて、授業や遊び時間に取り組んできた。しかし、昨年来のコロナ感染拡大を受け、体育的行事が中止になり、体育の授業においても密になる活動が制限された。感染状況により、休み時間で運動場に出れる時間を分けたり、なわとび自体もできなくなる事態があった中、子どもたちの遊びも含めた運動量は少なくなる一方である。質問項目「運動やスポーツは大切ですか」は男子50%、女子47.1%で男女とも全国・市平均より低いので、授業や取り組みの中で運動やスポーツの重要性を理解させることが重要であると考えます。また放課後や学校が休みの日にスポーツクラブに入っている割合は男女とも全国・市平均より低いので、より学校での体育の授業や体育的行事が重要性を持つと考えられます。質問項目「体育の授業は楽しいですか」は男子61.1%、女子47.1%で男女とも全国・市平均よりも低く、大きな課題である。子どもたちが楽しくかつ気軽に活動できる種目や取り組みを工夫していきたい。